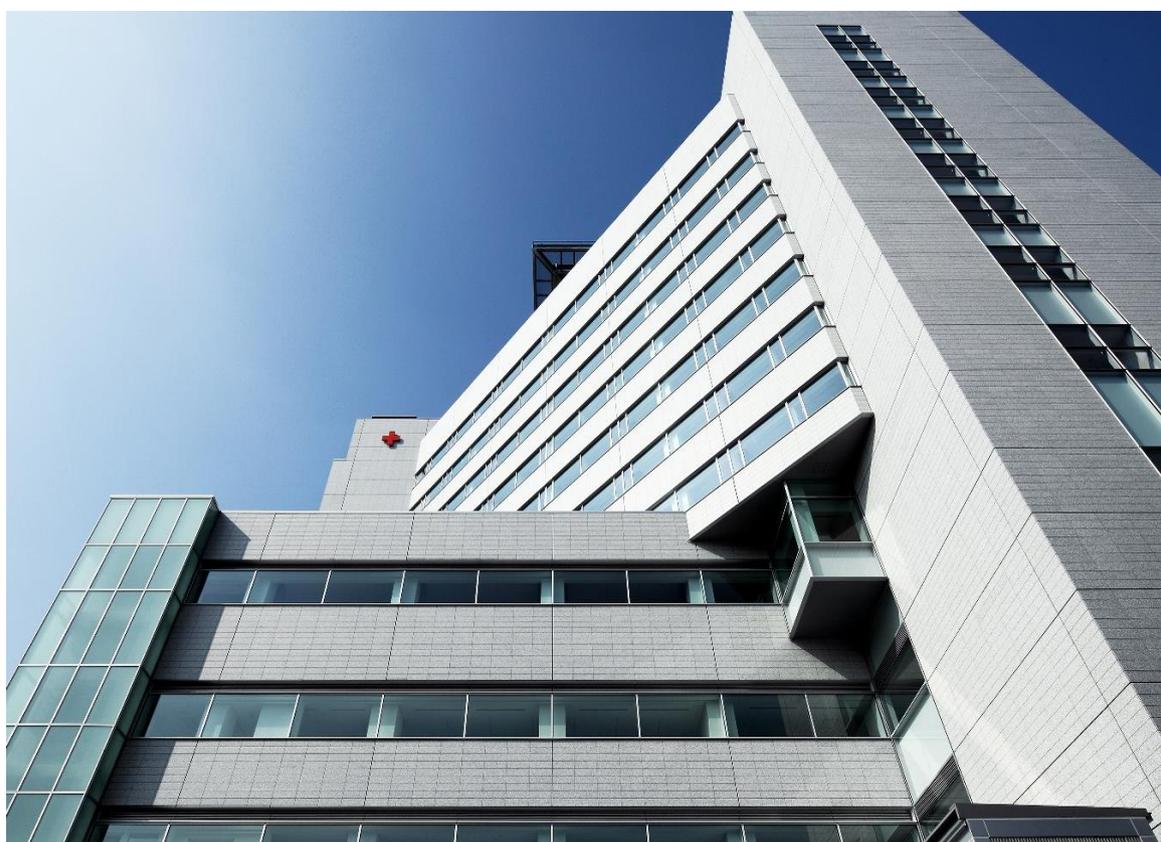


日本赤十字社医療センター

臨床研修について



日本赤十字社

日本赤十字社医療センター
Japanese Red Cross Medical Center

ご挨拶

日本赤十字社医療センターにおける臨床研修の特徴は、将来を見据えた専門性の高いプログラムを備えていることにあります。

当センターでは、現行の医師臨床初期研修制度が導入される以前から臨床研修医を受け入れ、多くの専門医を育成してきました。それを引き継ぐ形で現在の研修プログラムも内科・外科・小児科・産婦人科・特定診療科の5つのコースに分かれています。いずれのコースにおいても診療科専門医資格の取得を見据えた研修であると同時に、他科ローテートにより幅広い分野で研鑽を積むことができます。

当センターでは、全職員が一丸となって質の高い診療体制を維持し、がん診療、小児・周産期医療、救命救急及び災害医療を中核として高度な医療を提供するとともに、安全と安心の医療を守り続けています。当センターの目指す医療は救急医療にも現れています。夜間休日診療においても、医師と研修医による診療体制を維持し、救急診療を担っています。

当センター初期研修医は、東京大学医学部附属病院（たすきがけ）初期研修医2名とともに病院敷地内に整備された寮に居住し、安定した住環境のもとで研修しています。院外研修として学会、研究会、講演会などへの参加、院内においては研修成果を発表する「研修医発表会（1回/年）」、CPC（1回/月）での発表、論文作成など学術活動を奨励しています。

初期研修修了後の進路として、当センター後期研修へ進む医師の他、大学医局に所属しながら当センターへ再赴任する医師も数多くおります。平成30年度より開始した新専門医制度下における19基本領域中 8領域（内科・外科・小児科・産婦人科・放射線科・麻酔科・病理・救急科）において、基幹施設としての専門研修プログラムを策定しております。また他領域の殆どにおいては、大学病院等の連携を組んでおります。各研修医が目指す専門医資格取得を視野に入れた研修に重点を置くと同時に、総合的診療能力の体得に努めるよう、教育、多職種との連携を通じて人間味豊かな臨床医の育成を目標にしています。

日本赤十字社医療センター

臨床研修運営委員会

—当センターの臨床研修の特色—

◆ 当センタープログラムと各プログラムの募集定員数（予定）

1) 内科プログラム	5名	} 計 17名/学年 (2021年度採用者より東京都からの通達により削減)
2) 外科プログラム	4名	
3) 小児科プログラム	2名	
4) 産婦人科プログラム	3名	
5) 特定診療科プログラム	3名	



特定診療科プログラムとは、病理、脳神経外科、整形外科、麻酔科、救急科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、眼科のいずれかの特定診療科を選択し、研修するプログラムです。特定診療科は応募時に決めていただき、応募後の変更はできません。

+ 東京大学医学部附属病院からのたすき掛け（未定）：1年次のみ（最大2名）

ちなみに、2020年度は：

1年次 18名（男女比 12：6）

2年次 18名（男女比 13：5）（旧プログラム）

+ 東京大学医学部附属病院からのたすきがけ各学年1名 の計38名が在籍。

◆ 当センターのカリキュラム



2020年度から・・・

初期臨床研修プログラムから研修制度が変わりました。従来から厚労省の定める必修科目数が増えました。（10か月 → 15か月）

◇ 必修科目研修について

厚労省の定める必修科目	2020年度採用者以降 当センターの定める必修研修	
2020年度採用者以降	プログラム	
内科 6か月	内科・産婦人科 プログラム	外科・小児科 特定診療科 プログラム
救急科 3か月		
地域研修 1か月（2年次に実施）	} 追加された 必修科目 (並行研修可)	
外科 1か月		
小児科 1か月		
産婦人科 1か月		
精神科 1か月		
一般外来 1か月		
当センターでは、一般外来は並行研修で実施するため、 計 14 か月	計 2 か月	計 3 か月

※ 並行研修：他科研修中に一定研修日を定め実施する方法

◇ 選択科目研修

24か月のうち必修科目を除いた残りの研修期間（7か月又は8か月）は、専門科の研修に充てます。そのうちプログラムで定めた月数については、自由選択科目を選択することができます。自由選択できる月数および科目はプログラムごとに定めています。

◇ 当センターの研修期間

プログラム	内科	外科	小児科	産婦人科	特定診療科
必修科目・厚労省指定	14か月	14か月	14か月	14か月	14か月
必修科目・病院指定	2か月	3か月	3か月	2か月	3か月
選択科目	内科8か月	外科7か月	小児科7か月	産婦人科8か月	特定科7か月
自由選択	1か月	2か月	2か月	1か月	3か月
合計	24か月	24か月	24か月	24か月	24か月

◇ 24か月の過ごし方

1 年次

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
選択科	選択科	厚労必修 内科 (うち4か月は一般外来の並行研修を実施)*						必修 麻酔科	必修 麻酔科 /選択 科**	厚労 必修 救急科	厚労 必修 外科

2 年次

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
必修 外科	選択科	厚労 必修 地域 研修	厚労 必修 小児科 一般外来 *	厚労 必修 産婦 人科	厚労 必修 精神科	選択科	選択科	厚労 必修 救急科	厚労 必修 救急科	選択科	選択科

厚労研修：厚労省が定める必修。必修：当センター独自の必修。プログラム毎に必修数が異なる。

* 一般外来は、厚労必修内科4か月および厚労必修小児科において並行研修で実施する。

** 内科プログラム・産婦人科プログラムでは選択科を研修。



プログラム詳細はHP 教育研修推進室内 「初期臨床研修プログラム」をご覧ください。



救急科研修（3か月間）について

1か月目	原則1年次に実施	2次救急患者診療研修
2か月目	原則2年次に実施	2次救急（一部）+3次救急+集中治療
3か月目		



地域医療研修（1か月）について

2年次に実施。渋谷区医師会に所属する研修協力施設あるいは、相模原赤十字病院で行います。



夜間・休日救急研修

診療患者数 20,000人程度/年 → 研修医一人当たり約1,000人/年

	体制・回数/月	救急診察の対応	備考
初期研修1年次	1名体制 約4回/月	1次救急研修 Walk in 患者の初期対応。	帰宅か、入院か方向性を考え、 上級医に相談。
初期研修2年次 (ER2)	1名体制 約4回/月	2次救急対応。 初期1年次からのコンサル 受け。	帰宅か、入院か方向性を判断。 問題なく帰宅可能な症例以外は上級 医に相談。

夜間救急研修の翌日が営業日に当たる場合は、原則として代休を付与する。

お給料

- 1 年次：
23 万円（賞与 10 万円／年）、臨床研修手当（上限 15 万円／月 評価に基づき支給）
- 2 年次：
27 万円（賞与 30 万円／年）、時間外手当（当直 1 回あたり約 3 万 5 千円）

住まい

- 独身寮（敷地内 病院から徒歩数分）
間取り 1K、宿舍費及び共益費 5.3 万円～5.8 万円／月、光熱水費等 自己負担
- 既婚者の場合は、借上社宅制度有（条件あり）
- 賃貸住宅に対する住居手当有（条件あり）

採用試験

- 2021 年度募集要項を参考にしてください。
- 2021 年度採用向け採用試験は、筆記試験は実施せず面接試験のみ行いました。
- 2022 年度向け採用試験の実施方法については、未定です。

病院見学

- 2022 年度採用者向けの現・5 年生を対象とした見学は 2020 年 8 月から実施しています。
詳細は、当センターホームページをご覧ください。

進路

日本赤十字社医療センター、大学病院、市中病院など

当センター 後期研修制度

- 2020 年 4 月 1 日現在 後期研修医 70 名
 - 1 年次 25 名（男女比 18：7） うち、内部から 7 名
 - 2 年次 25 名（男女比 15：10） うち、内部から 9 名+たすきがけ 1 名
 - 3 年次 19 名（男女比 11：8） うち、内部から 5 名
 - 4 年次 1 名（麻酔科 4 年次）（男女比 0：1） うち、内部から 1 名
- 新専門医制度（2018 年度開始）
当センターが基幹プログラムの認定を受けている領域：
内科・外科・小児科・産婦人科・放射線科・麻酔科・救急科・病理

研修医の主な出身大学

大阪大学、金沢大学、京都大学、熊本大学、群馬大学、慶應義塾大学、順天堂大学、信州大学、千葉大学、筑波大学、東海大学、東京大学、東京医科大学、東京医科歯科大学、東京慈恵会医科大学、東京女子医科大学、東北大学、名古屋市立大学、日本大学、広島大学、山梨大学、横浜市立大学、琉球大学など



ご質問があれば、
教育研修推進室まで
お問い合わせください。

メールアドレス：
rinsyokensyu@med.jrc.or.jp